

大阪支部 24年度「秋季歴史探訪の会」開催報告

(平清盛の福原京の跡を訪ねて神戸・兵庫を行く)

さる平成24年11月24日(土曜日)、NHKの大河ドラマ「平清盛」の終盤の舞台となり、首都であったこと僅か半年の「福原京」の跡を訪ねて、総勢23名、中には遠路岐阜からW61の牧野博文さんが歴女?の高2のお嬢さんとご一緒に参加され、一行は一気に華やかになりました。

午前10時、3名のガイドさんに導かれて出発。午前は「福原京」跡を中心に山手を訪ねる。まずは「荒田八幡神社」へ、この周辺は「福原京」の中心地だったところとされ、かつて清盛の弟・平頼盛の山荘跡で遷都時には安徳天皇の行在所となったところで、境内には「安徳天皇行在所跡」の碑のほか「福原遷都八百年記念」の碑も立っている。続いて山手に向かい清盛が太政大臣を辞した後「平安京」からこの「福原」に移り住み、古代の港「大輪田泊」を見下ろせるこの地に「雪見御所」を建てたといわれ、発掘時に出てきた礎石の石に「雪見御所旧跡」と刻まれた碑がある。このあとさらに山手へ、一説に後白河法皇を幽閉した「萱の御所」跡とも云われる「氷室神社」、続いて後白河法皇が篤く信仰されたという紀州熊野権現を祀った「熊野神社」を巡って昼食場所へ。

昼食の後は、海側にある当時の日宋貿易の拠点「大輪田泊」周辺の清盛ゆかりのスポットを訪ねることとして、まずは当時の港湾施設の基礎に用いられた巨石の一部として出土した「大輪田泊の石椋」を見て「来迎寺(築島寺)」へ。ここには当時港の修造工事が難航した際、自ら人柱になって工事を成功に導いた17歳の清盛の侍童「松王丸」の菩提を弔うため建立された「松王小児入海之碑」や清盛の寵愛を受けた京都の白拍子「妓王・妓女の塔」がある。この後大河ドラマ放映中だけ特設されている「清盛歴史館」に入り、清盛が生きた平安時代の暮らしや、遺跡や出土品展示を通して800年前の神戸を体験。館を出たあと清盛とは特に縁が深い「能福寺」へ、ここは清盛が出家した寺で、のち京都で没したあと遺骨を持ち帰って葬られたと伝わる「平相国廟(平清盛廟)」や日本三大仏の一つといわれる総高18mの「兵庫大仏」がある。続いて兵庫運河近くの「清盛塚」へ、清盛の死後百年ほどあとに時の執権北条貞時が建立したものとされ高さ8.5mの石造十三重の塔で県重要文化財に指定されている。隣には平家物語の中で、琵琶の名手と謳われた平経正の塚といわれている「琵琶塚」、昭和になってから有志によって建立された「清盛像」がある。

兵庫運河にかかる「清盛橋」を渡ると「薬仙寺」。ここにも後白河法皇を幽閉し、別名「牢の御所」とも呼ばれた「萱の御所跡」とされる碑がある。

最後は大鳥居でも有名な「和田神社」へ、ここも清盛が大輪田泊の修築を祈願して、安芸の国、宮島より祭神を勧請したものとされている。

結果として10kmを超えた清盛の福原京跡の探訪行も無事、時間通りに終了出来ました。皆さん、大変お疲れ様でした。

(E36 藤原 康宏・記)



名古屋工業会大阪支部 24年秋季歴史探訪の会 24・11・24
「清盛の福原京の跡を訪ねて神戸・兵庫に行く」 能福寺大仏前にて



